



最後に、今回の調査で、私(編集者)にとって何よりも印象深かったのは、内陣両余間(七高僧・聖徳太子が安置されている部屋)の壁紙の地下に使われてあった半紙です。何かの折のご懇志(当時はお金ではなくお米だったようです)を書き留めたものだと思いますが、おびただしい数のご門徒のお名前が書いてありました。調べてみると一九〇〇年初頭(明治三十五〜四〇年ごろ)までご存命であった方々のお名前でした(写真左)。

西教寺にご縁を結ばれた方は、このお寺の歴史の分だけ、相当数いらっしゃるのだ

## 夏休み子ども大会

うと、通り一遍のことは思ってはおりませんが、筆で書かれておびただしい数のお名前を實際に間近に見ると、仏法を喜ばれ、お寺を支えてこられた先達の熱い思いが、時代を超えて今私に伝えられているような感じがして、背筋が伸びる思いがしたことでした。

龍谷大学伝道部は、毎年夏にお寺を巡回して、人形劇やゲームなどを通して仏さまの教えを伝えてくれています。今年も近隣数ヶ寺合同で伝道部さんと一緒に夏休み子ども大会を催し、六十一名の参加がありました。

今年は、何か記念になるものをもって帰ってもらおうと、一班十人程度に分かれ、色紙を細かく切つて貼る「切り絵」をしました。

ところが各班に一本ずつしかステイクのりがなくて、子どもたちは「次はボクの番

じゃ」「いや私よ！」と半分ケンカ状態になりました。私は、「伝道部さんはどうしてもっとたくさんステイクのりを出さないのだろう」とイライラしていました。

なんとか切り絵が終わり、次は人形劇。ゴリラのゴリ男が、お坊さまからもらったおまんじゅうをニヤール助にやらずに自分だけ食べてしまう話でした。劇が終わり、伝道部の長崎先生が、出てこられて話をされました。「ゴリ男はどうでしたか？自分だけおまんじゅうを食べてズルかったですね。自分のことだけ考えずに、相手のことも考えなければいけませんね。

ところで、ゴリ男もそうです。ゴリ男もみんなはどうですか？切り絵の時、ステイクのりを仲良く使えませんか？」という長崎先生の問いかけに、「何とそうだったのか、ステイクのりには、そんなに深い思い召しがあつたのか」と驚き感激しました。子供たちもハツとした様子でした。



色々な遊びを通して、「相手のことを考えてみんな仲良く」を学んだ一日でした。小さいときにこのことを学んでおくことの大切さを実感しました。

### 今年は夜まで

また今年も、会終了後、自由参加で夜まで「集い」をやりました。編集者(智寧)が小さい頃は泊りがけでやっていました。キャンプファイヤーなどをしてもらつても楽しかった記憶があるので、何とか子供たちにそれに近い思い出をと思い、今年ちよつと頑張つてみました。

飯盒炊きさんを作つて食べたのですが、カレーを作ると、カレーを作るには何がいるのか、ご飯はどうしたらたけるのか、材料は何がどのくらいいるのか、買い物からはじまって、マキ割り、米とき、飯盒炊きさんと、自分で考えて何かをする楽しさを子供たちが学んでくれたらと